



谷市立吉見小学校

校長 松葉 友子

一 本校の沿革

明治六年八月十五日に、現在の青山に根岸武香氏が中心となり、「青山学校」として開校しました。明治二十六年に「吉見尋常小学校」に改称し、大正十一年には現在の場所箕輪に移転しました。昭和十六年「吉見国民学校」に、昭和二十二年学制改革により「吉見村立吉見小学校」となりました。昭和三十年には市田村と合併し大里村になり、同年二月十日に校舎落成移転祝賀式を盛大に挙行し、以降その日を開校記念日としました。平成十四年町制施行、平成十七年市町合併により「熊谷市立吉見小学校」と改称しました。令和四年度には開校百五十周年を迎え、児童会主催の祝う会を開催しました。

二 校章・校歌制定に係るエピソード

1 校章

① 制定年 校旗制定が昭和四十二年九月一日であることから、同時期ではないかと考えられます。

② 中央の「小」の字が三つの「吉」で囲まれ、「よしみ」を表すと言われています。

2 校歌

① 制定年 昭和四十四年九月一日

② 「学校行事の時にみんなで歌えるように校歌が欲しい」という子どもたちの願いから、当時の新井政雄校長先生のもと、校歌が制作されたとのこと。同年十一月十五日には、初代NHK歌のお姉さん真理ヨシ子氏、ピアニスト川崎祥悦氏を招いて、盛大に校歌発表会が開催されました。その時の嬉しさを、今も鮮明に覚えているとの卒業生の言葉です。発表会の音声記録は、現在も学校に大切に保管されています。

吉見小学校校歌

川添一郎 作詞

田中利光 作曲

The musical score is written in treble clef with a key signature of one flat (B-flat). It consists of four staves of music. The lyrics are written below the notes. The first staff starts with a dynamic marking of 'mf'. The second staff has a dynamic marking of 'mp'. The third and fourth staves continue the melody. There are three verses of lyrics provided.

1. あおげば ちがふの むねたかく
 2. ゆたかし にながの あかぜに わたぬ
 3. きびしき ふゆの かぜに たぬ

けむる むどりの むきし のの まなびの
 けしべに もゆーる わかーく さよ まつよ くたぬ
 はてなき みらーの とおーく とも たゆまぬ

にわに はなゆれ て きよらに たてると こうしりそはえ
 だわし く はひをかめ あかや くとも とこをとりて はげ
 あゆみ ふみかめ かが や のぞみ このまどに そだ

あまて る(ハ) れき(ハ) しにい われ(ハ) ららよ(ハ) しみ(ハ) しょう(ハ) がっ(ハ) こう
 て(ハ) み(ハ) ら(ハ) われ(ハ) ららよ(ハ) しみ(ハ) しょう(ハ) がっ(ハ) こう しょう(ハ) がっ(ハ) こう

熊谷市立吉見小学校 校歌

川添一郎 作詞
 田中利光 作曲

一、仰げば 秩父の峰たかく

けむる緑の むさし野の
 まなびの庭に 花揺れて
 清らにたてる 校舎こそ
 栄えある 歴史
 われら 吉見小学校

二、豊かに 流れる荒川の

岸辺にもゆる 若草よ
 強く 正しく 灯をかかげ
 明るく 友と手をとりて
 励まん 学びに
 われら 吉見小学校

三、きびしき冬の 風に耐え

はてなき道の 遠くとも
 絶ゆまぬ歩み 踏みしめて
 輝く希望 この窓に



吉見小キャラクター
 よし☆ぴよん

